## 研究業績表

## 森 謙二

著書、学術論文等の名称	単著、	発行又は発	発行所、発表雑誌	概	要
	共著の	表の年月	等又は発表学会等		
	別	(西暦でも	の名称	(共著の場合は該当頁数	)
		可)			
(著書)					
1. 家格制をめぐって	共著	昭和58年2	黒木三郎先生還暦	家格についての用語が、	法社会学•社会学•
		月	記念論文集『法とそ	民俗学・歴史学において	異なってもおり、そ
			の周辺』有斐閣」	の概念を整理したもの。	
			(東京)		
2.『家族・村落・法-教材』	共著	昭和58年6	敬文堂(東京)	家族と村落についての理	論枠組みを初心者
		月		用に解説したもの。(平松	紘氏と共著)
3. カエリムコ (年季婿) 習俗に	共著	昭和63年2	大竹秀男ほか編	大間知篤三は労役婚的力	な性格をもつ年季婿
ついて		月	『擬制された親子-	の習俗が東北地方に分れ	<b>万していることを報告</b>
			養子』三省堂(東	し、その習俗が東北地方	の固有な姉家督相
			京)、PP.325	続・中継相続の習俗・幼生	<b>少のアトツギを後見</b>
				する制度に機能変化して	いることを明らかに
				した。P.139-P.172	
4. 『出作りの里-その民俗と	編著	昭和64年5	新葉社(長野県)、	本書は、長野県伊那郡清	<b>う内路村の「調査報</b>
歴史』		月	PP.333	告書」と「家とムラ」の社会	構造を扱った論考
				から成り立っている。ここ	では社会史的な観
				点から、清内路において	家とムラがどのような
				存在したかを明らかにする	ると同時に、上清内
				路の「一村総墓」の形態の	の墳墓と下清内路の
				「同族総墓制」の実態を明	月らかにした。
5. 隠居制と家-茨城県北部	共著	平成2年11	竹田旦編『民俗学	茨城県北部は隠居習俗の	り北限として知られ
の隠居慣行を中心として		月	の進展と課題』国書	ている。異世代が別居を	するという隠居習俗
			刊行会(東京)	を社会学・民俗学におけ	る学説史を踏まえた
				上で、江戸時代の宗門改	(帳および明治期の
				戸籍簿を通じて隠居習俗	の実態を明らかに
				した。P.113-P.145	
6. イデオロギーとしての「祖先	共著	平成3年10	葬送の自由をすす	家族国家論のなかでは「	祖先祭祀」は「国民
祭祀」と「墓」		月	める会編『〈墓〉から	道徳」として位置づけられ	、墓地・墳墓は祖
			の自由』社会評論	先祭祀の対象と位置づけ	られた。日本にお
			社(東京)、PP.211	ける祖先祭祀の実際と「国	国民道徳」としての
				祖先祭祀のズレを問題と	した。P.49-P.74
7. 穂積陳重と柳田国男ーイデ	共著	平成4年4月	黒木三郎先生古稀	柳田国男の祖霊信仰論の	の形成には法学者
オロギーとしての祖先祭祀			記念論文集『現代	である穂積陳重の祖先祭	紀論があるのでは
			法社会学の諸問	ないかという仮説を提示し	た。家の祖先祭祀・

1	1	l	題』(上)民事法研	ムラ祭祀(氏神祭祀)・国家祭祀=皇室祭祀を
				祖先祭祀の枠組みのなかで位置づける思想
			0	はすでに穂積のなかで展開されたものであ
				り、柳田はそれを民俗学的に発展させたもの
				とする仮説を提示した。P.83-P.109
8. 明治初年の墓地及び埋葬	共著	亚比5年1月	藤井正雄ほか編	明治初年には、①地租改正との関連で、②
	共有	平成3年1月		
に関する法制の展開-祖先祭			『家族と墓』早稲田	都市計画の関連で、③公衆衛生政策との関
祀との関連で			大学出版部(東	連で、④祖先祭祀との関連で、墓地政策が
			京)、PP.318	展開する。明治初年に墓地にたいする大き
				な変革があったという観点から、明治初年か
				ら明治17年の「墓地及埋葬取締規則」が制
				定されるまでの過程を、太政類典などの資料
				を用いて明らかにしたものである。 P.197-
	))/ <del>     </del>	T-N= F 0 F	3# 3k 4l (-tt-) 55	P.229
9. 『墓と葬送の社会史』	単著	平成5年6月	講談社(東京)、PP.	墓地の歴史を比較社会史的に明らかにし、
			268	伝統的な墓制の多様性についても明らかに
				した。また、現代の墓地或いはそれを取り巻く
				問題にはどのようなものがあるかをあきらかに
				し、家族構造の変化が墓地の継承を困難に
				し、葬送・墓制に関しても多くの人々から多様
				な要求が行われていることも明らかにし、墓
				地政策に関する新たな観点の必要性を訴え
				た。(現代新書)
10. 家族と墓をめぐる一考察	共著	平成5年9月	獨協大学編『市民	「墓は不融通物か」という議論を巡って、明治
			社会と法律』獨協	初年から明治民法形成時の法制を中心に検
				討し、明治初年段階では、墓をどのようなもの
			53	として認識していたかについて検討した。P.1
				73-P.196
11. 墓と社会集団	共著	平成6年6月	佐々木宏幹・村武	墓と共同体の関連について言及したもの。人
			精一編『宗教人類	の死は共同体に関わる問題であり、墓も必ず
			学』新曜社(東京)、	しも家族を単位としたものではなく、家族を含
			PP.278	めた共同体(Gemeinschaft)を単位として建立
				されていることを問題とした。P.68-P.78
12. 『自分らしい最後を決めて	監修	平成7年2月	PHP研究所(東	現代、葬儀や墓で何が問題になっているかと
おく本』			京)、PP.224	いう問題に関し、その処方箋について書いた
				ものを監修した。
13. 明治初年の服忌・服喪ー	共著	平成9年	『服忌・穢れ・死』	明治初年の「近代化」政策のなかで、穢れに
一つの覚書として			(仮称)早稲田大学	関する法制度を解除していく明治国家の服
			出版部(東京)pp.	忌に関する法制の歴史を明らかにした。
14. 相続・継承と家	共著	平成9年	『日本民俗学講座』	相続と継承の問題に関し、両者の違いを前
			(仮称)雄山閣(東	提にして、その多様な習俗を整理したもの。
			京)	
15. 祭祀条項と墓地の継承	共著	平成9年	石川利夫先生追悼	民法の祭祀条項と墓地承継の在り方につい

Ī			記念論文集	ての議論したもの。
16. 『吐山の墓制-墓と祖先	単著	平成9年3月	文部省科学研究費	一般研究(c)課題番号06620010奈良県山
祭祀についての法社会学的研			補助金報告書	辺郡都祁村での墳墓建立に関しての実態調
究』				査。吐山の全墓石のデータベースを作成し、
				家墓の建立時期などの分析を行った。
17.「共同体(ムラ)祭祀・宮座・	共著	平成10年7	高橋統一先生古希	奈良県山辺郡都祁村の宮座を中心に、宮座
個人」の法社会史的考察」(		月	記念論文集『性と	がどのような原理によって構成され、明治初
			年齢の人類学』.岩	年にどのように変質したか、について考察し
			田書院(東京)	た。(p.69~p.103)
18. 『墓地に関する意識調査』	共著	平成10年8	厚生省厚生科学研	研究代表者として、少子高齢化社会の中で
		月	究(自家製・茨城)	の墓地のあり方についての意識調査を全国
				規模で実施した報告書
19. 葬送と社会集団	共著	平成11年	新谷尚紀編『講座	埋葬・葬送の意味を確かめながら、埋葬・墓
			人間と環境9 死	がどのような社会集団によって担われている
			後の環境―他界へ	かを問題にした。また、近代の日本人が受容
			の準備』昭和堂(京	した火葬の文化についても研究した。
			都)	
20. 『名前と家族 - 名づけの	編集	平成11年6	弘文堂(東京)	上野和男と共編。比較家族史学会の研究大
家族史』		月		会「名前と家族」のシンポジウムの成果を刊
				行した。
21. 『墓と葬送の現代-祖先	単著	平成12年7	東京堂出版(東京)	現代の墓地問題についてまとめる。(1)現行
祭祀から葬送の自由』へ		月		の墓地埋葬法の問題、(2)葬送をめぐる現代
				現象とその問題点、(3)祭祀条項が問題解決
				のネックになっていることを指摘した。
22. 近代の家一日本型近代	編著	平成12年7	江守五夫先生古希	日本の家に関する学説を整理しながら、祖先
家族論へのプロローグ		月	記念論文集『歴史	祭祀の機能を組み込んだ日本型近代家族の
			と民族における家	特徴は何かを明らかにする。p.86~p.133。本
			族と結婚』第一書	全体の編集については、宮良高弘との共編
			房(東京)	
23.『老熟の力―豊かな〈老い〉	編集	平成12年12	早稲田大学出版部	平成11年に実施した日本民俗学会50周年
を求めて』		月	(東京)	記念事業シンポジウム「豊かな〈老い〉を求め
				て」(曳舟文化センター)の記録。 あとがきを
				執筆。(宮田登・網野房子と共編)
24. 家(家族)と村の法秩序	共著	平成13年10	水林彪•大津透•新	明治初年から明治末期までの、穢れに関す
		月20日	田一郎「・大藤修編	る法の解除から国家神道体制が末端に浸透
			『法社会史』(新体	する明治末期までの法秩序を法社会史的に
			系日本史2)山川出	考察した。明治国家体制の成立とそれがどの
			版社(東京)	ように社会に浸透していった可について論じ
			比較家族史学会編	た。P.368-430
25. 「はしがき」と「住谷一彦の	共著	平成14年	『家族・世紀を超え	比較家族史学会20周年を記念したシンポジ
「家族と家」理論」			て』日本経済評論	ウム「家族・世紀を超えて」をまとめたもの。所
			社(東京)	収論文では、住谷一彦の家・家族理論を整
				理した。p. iii -viii、p. 181-191
26. 秋田における同族・総墓・	共著	平成14年1	義江明子編『日本	論文8の再録。社会学のいわゆる「有賀=喜

村落一河辺郡雄和町の事例を		1月	家族史論集7 親	多野論争」を踏まえ、同族集団の実態を明ら
中心に			族と祖先』吉川弘	かにすると同時に、村落と同族集団の関連を
			文館(東京)	明らかにしたものである。①同族集団は本分
				家の系譜関係に基づいた集団であり、本家
				の始祖を中心とした祖先を祀る祭祀集団であ
				ること、②同族集団の祭祀の中心に墳墓があ
				り、一つの墳墓を同族集団によって共有し
				(総墓と呼んでいる)など、を実証的に明らか
				にしたものである。
27・お墓の制度と現実-お墓	共著	平成15年	小畠宏充編『日本	明治以降の墓地行政の歴史について概説を
革命のはじまり			人のお墓』日本石	加え、現代の墓地行政や墓地の承継などの
			材産業協会(東京)	問題について解説を加えたものp.315-342
28.『家族革命』	編著	平成16年	弘文堂(東京)	岩上真珠・山田昌弘・清水浩昭と共編。家族
				の個人化の中で皆婚社会と崩壊と少子高齢
				化社会の中での家族について分析した。p.1
				-5, p.29-46, p.68-75, p.230-237
29.『少子高齢化社会における	単著	平成17年3	平成13年~15年度	研究代表者(課題番号13620014)として、官
「墓地及び墳墓承継に関する		月	科学研究補助金	報に掲載された無縁墳墓公告のデータ整理
法社会学的研究』			(基盤研究(C)(2)研	を行い、金沢市の無縁墳墓改葬の実態調
			究成果報告書・自	査、および愛媛県で無縁墳墓及び改葬に関
			家製(茨城•pp.195)	しての意識調査を実施し、それをまとめた。
30.少子化時代におけるお墓と	共著	平成17年3	平成14年~16年科	研究代表者·鈴木岩弓(東北大学大学院·教
その継承・戦没者慰霊施設に		月	学研究補助金基盤	授)、課題番号14201004。本調査において、
ついての国民意識・戦没者慰			研究(A)(1)『死者と	変貌する墓地・葬送・慰霊(戦没者慰霊を含
霊をめぐる意識調査・死者と追			追悼をめぐる意識	む)に関する意識を全国規模で調査した。本
悼をめぐる意識調査			変化-葬送と墓につ	報告は、そのデータを整理し分析をした。調
			いての総合研究』	査の実施年度は平成15年、標本数2000・有
			(仙台·pp.323)	効回答数1409、調査は訪問留置法で行っ
				た。P.49-53・P.79-80・p88-134
31.来間社会の二元的構造と	共著	平成17年3	平成13年~16年科	研究代表者・田里修(沖縄大学・教授)、課題
ブナカ―村落祭祀とヤーマス		月	学研究補助金基盤	番号13302001、沖縄・宮古島来間での調査
御願			研究(A)(1)『沖縄に	に基づいて、門中制の基層構造とは何かを
			おける近代法の形	問うたもの。村落祭祀と親族祭祀が重層し、
			成と現代における	多様な社会構造が多元的に存在している様
			法的諸問題』(沖	子を実証的に明らかにした。P.310-349
			縄·pp.514)	
(学術論文)				
1.現代家元制度についての覚	単著	昭和46年	明治大学大学院紀	家元は芸を「家芸」として伝承する者あるいは
書			要 第9集	機関であるが、その伝承の担い手である「家」
				が財団法人となって展開している現実を問題
				とした。家は多様な形を取って継承されてい
				<.
2. エールリッヒの法社会学の	単著	昭和48年	明治大学大学院紀	エールリッヒの「生ける法」概念が提唱される

理論的背景についての一考察			要 第11集	理論的な背景について、歴史法学との関わり
				で整理したもの。
3. エールリッヒの「生ける法」	単著	昭和49年	明治大学大学院紀	エールリッヒの「生ける法」概念について、ドイ
概念			要 第12集	ツの社会学者レービンダーの議論によりなが
				ら整理したもの・
4. 現代の家元制度について	単著	昭和52年	総合研究「現代に	家元が財団法人となって継承されていく一方
- 擬似親族集団としての特質			おける親子の法的	で、家元集団が社団法人化し、その免許制
とその変化			社会的問題に関す	度も「恩」や「義理」に基づくようなものではな
			る研究」その(1)	く、官僚化されたシステムのなかで巨大な企
				業として展開している現実を明らかにした。
5. 姉家督相続の一考察	単著	昭和54年3	法社会学 31号	初生子相続(最初に生まれた子供が女子で
		月		あったときその女子(長女)に婿をとって家を
				継承する習俗)とその崩壊過程について茨城
				<b> </b>
				p.117-140
6. 北関東地方の一村落にお	単著		家族史研究 創刊	**
ける隠居制と相続制		昭和55年5	号	   方を中心として分布する姉家督(初生子)相
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		月	·	続と西南日本を中心に分布する隠居習俗を
		71		取り上げ、その両者が並存している社会構造
				を分析した。p.218-p.251
7. 村落構造と村規約(近代)	共著	昭和56年1	茨城キリスト教短期	静岡県賀茂郡河津町逆川の区有文書を
	<b>六</b> 有			
一資料		2月	大学紀要 第21	中心として、近代のムラ規約の状況を明らか
			号	にしたもの(青嶋敏と共同執筆)
8. 秋田における同族・総墓・	単著	昭和60年1	茨城キリスト教短期	この論文は、社会学のいわゆる「有賀=喜
村落一河辺郡雄和町の事例を		2月	大学研究紀要 2	  多野論争」を踏まえ、同族集団の実態を明ら
中心として			5号	かにすると同時に、村落と同族集団の関連を
				明らかにしたものである。①同族集団は本分
				家の系譜関係に基づいた集団であり、本家
				の始祖を中心とした祖先を祀る祭祀集団であ
				ること、②同族集団の祭祀の中心に墳墓があ
				り、一つの墳墓を同族集団が共有する(総
				墓)など、を実証的に明らかにしたものであ
				る。p.41-p.70
9. 政治学者神島二郎の家族	単著	昭和61年9	比較家族史研究	比較家族史学会での報告要旨。上島次郎の
理論一近代日本の家族と家族		月	創刊号	家族・家理論を整理し、報告したもの。p.82-
主義				p.86
10.伝染病と墓地	単著	昭和61年	家族法研究懇話会	一般の墓地から伝染病墓地が分離されてい
			報 2号	く、法的過程を分析した。
11.墓をめぐる法と民俗 一覚	単著	昭和62年3	創造 16号	なぜ明治初年の墓地法制の研究が必要か、
書		月		これまでの社会調査の成果を通じて明らかに
				し、現実の「墓」に関わる習俗とその法制度の
		1		展出の間違いでいて この地切りたこ
				歴史の関連について、一つの枠組みを示し

I		1	I	になったものである。ここでは、明治初年にお
				ける墓地法制がこれまでの墓地の習俗に大
				きな影響を与えたことを明らかにした。P.12-2
				4
   12.「死後の離婚」= 帰葬の習	単著	昭和62年1	比較家族史研究	でである。
俗について	平有	1月	2号	県清内路村に残されている文書から家言及
付について		17	25	
19「苺」、艮歌地	単著	昭和64年1	比較家族史研究	した。p.84-p.86 墓は村落の周辺に置かれるだけではなく、中
13.「墓」と屋敷地	早 者	2月		
		2月	4号	世以来屋敷地の中に設置される習俗も登場
				してくる。この屋敷はあの問題について言及
	六 平	亚子0年10	北十回 1 01 日	した。p.103-107
14.田沢の民俗	単著		北方風土 21号	秋田県田沢湖町田沢の調査報告書。同族制
		月		村落における村落と家族の社会構造を中心
				に、近代の東北日本の社会構造を社会史・
- Italy all and			(11-04)	民俗史的観点から明らかにした。 p.5-65
15.国際化する葬儀業界	単著	平成3年1月	SOUGI(葬儀) 創	ECの統合に伴いヨーロッパでは人的移動が
			刊号	激しくなり、遺体の移動とともに葬儀業界も国
				を超えて展開するようになった。世界国際葬
				儀業界の会議=IFTAに参加し、そのリポート
				をまとめたもの。 p.71-74
16.ユーゴスラビアの墓地	単著	平成3年4月	EN21 2号	ユーゴスラビア(現クロアチア)の墓地につい
				ての報告。地中海沿岸の墓地は一般に遺体
				を埋めるのではなく、一定の空間に安置する
				形式を多い。P.2-3
17.「死者の都市」 ーウィーン中	単著	平成3年9月	SOUGI(葬儀) 5	墓地は「社会の鏡である」という観点から、
央墓地-ヨーロッパの葬送・墓			号	ヨーロッパの墓地を比較社会史的に検討した
制(1)				もの。日本とヨーロッパの墓地を比較検討す
				るための序説。p.76-80
18.ハルシュタットの墓制は語る	単著	平成3年10	本-読書人の雑誌	ハルシュタットはケルト文化が残るオーストリ
		月	10月号	ア. ザルツカンマングートの一地域である。こ
				こではいったん土葬をした後それを改葬して
				遺骨を納骨堂(バインハウス)に納める複葬の
				習俗があり、それを報告した。p.65-69
19.ヨーロッパの火葬-ヨーロッ	単著	平成3年11	SOUGI(葬儀)	ヨーロッパにおいて1960年代以降に火葬を
パの葬送・墓制(2)		月	6号	受容したあと、ヨーロッパの埋葬形態がどのよ
				うに変化していったかについて論じた。ヨーロ
				ッパで浸透する火葬について、日本の火葬と
				の比較において比較文化的に考察したも
				⊘₀ p.65-p.69
20.ヨーロッパの家族墓-ヨー	単著	平成4年1月	SOUGI(葬儀) 7	家族墓は「近代の産物」であるという仮説を前
ロッパの葬送・墓制(3)			号	提として、日本における「家族墓(家墓)」とヨ
				ーロッパの家族墓の共通性と異質性を検討
				したもの。p.65-p.69
21.葬送の自由 -撒骨をめ	単著	平成4年2月	本一読書人の雑誌	平成3年に相模湾沖で実施された撒骨をめ
1 2	ı · "	1		1

型立医史氏俗博物   上たもの。	ぐって			2月号	ぐって、そこにどのような問題があるかに言及
類研究記要 41					したもの。
別別	22.総墓の諸形態と祖先祭祀	単著	平成4年3月	国立歴史民俗博物	日本の伝統的な墓の形態としては家を単位
				館研究紀要 41	としたものが一般的であると考えられてきた。
25.上があり、このような複数の家々の集団が一つの境富を建立する場合、それを「終臨」と名付けた。また、このような複数の家々の集団が一つの境富を建立する場合、それを「終臨」と名付けた。また、このような慎盛がよずしも「祖先祭祀」の対象ではないことも明らかにした。力を持ちの事態であった。力を持ちのからいた。たとまば、「永春の婚礼」は中国・韓国などのおける死態地のとの関連のなかで、多様が習俗が伝承されていることを明らかにした。たとまば、「永春の婚礼」は中国・韓国などのおける死態地のとの関連のなかで、家族が墓地の総策としての墓地行政   単著 平成6年11 月   18号   まることが難しくなっている現実を指摘し、「福祉政策としての墓地行政をであることを指摘した。力はついて、実験が墓地の総務としての墓地行政をであることを指摘した。力はついて、実験が墓地の総務を含むらいたがで、事験が墓地の総務を含めることを指摘した。力はついて、また家族機能がある。   18号   上紋家族史研究   日本会社協した。力はついて、その意義と問題点を明らかにした。社会規能としての感情(受情)を問題として、それが実験集団を規制・束縛する論理となっていること、また家族機能が家族無団から解除され、部分的によれている現実を指摘した。力がで開題になったまた家族機能が家族・大田の本なと、立た代と論のなかに、委譲されている現実を指摘した。力に他論のなかに、委譲されている現実を指摘した。力に他論のでは、部分は、近代化論のなかに、事論の再構築をあざし、近代化論のなかで開題になったま同体論の再検察をあざし、近代化論のなかで開題になったま同体論の再検察をあざし、近代化論のなかに要認されている現実を指摘した。力に明確として、伝染病の忌意など近代化の中で再編成される「輸れ、観念を問題として(力・19号)268 現代の墓地経営を問題として(力・19号)269 高速を経営の問題についてまとめたもの。11 月 号 1 月 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日				号1	しかし、墓(墳墓)は地域社会、親族集団(同
一つの墳墓を建立する場合、それを「総墓」と名付けた。また、このような墳墓が必ずしも 「相先祭祀」の対象ではないことも明らかにした。 p.255 p.314   14   14   15   15   16   14   15   16   14   16   16   16   16   16   16					族)、信仰(檀家)集団を単位として建立され
と名付けた。また、このような墳墓が必ずしも 「祖先祭祀」の対象ではないことも明らかにした。p.255-p.314 23.ヨーロッパの葬送・墓側(4)  平成4年3月  SOUGI(葬儀) 8 ヨーロッパの葬送音俗について、比較社会史 的観点から問題として、多様な習俗が伝承されていることを明らかにした。たとえば、「宛若 の婚礼は中国・韓国などのおける死霊蜂の 習俗と類似するが、ヨーロッパではキリスト教 との関連のなかでこの習俗は説明されている。p.65-p.69  3、疾精造の変化のなかで、家族が墓地の凝 素者となることが難しくなっている現実を指摘し、福祉政策としての益地行政が必要であることを指摘した。p.43-p.46 社会学(女性学を含む)において展開されている家族論とのでいること、また家族機造が家族集団を持つを問題として、それが家族集団を規制・束縛する論理となっていること、また家族機造が家族集団がの解除され、部分的にそれが地域 社会のなかに柔護されている現実を指摘した。p.60-68 期間として、それが家族集団を規制・束縛する論理となっていること、また家族機造が家族集団をついること、また家族機造が家族集団をついること、また家族機造が家族集団がら解除され、部分的にそれが地域 社会のなかに柔護されている現実を指摘した。p.60-68 共同体論の再検察をめざし、近代化論のなかで問題になった共同体論の再検討を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。p.215-219  日本伝統の「穢れ」「縄金を間間として、伝染病の悪避など近代化の中で再編成される「嬢れ」組念を間間として、伝染病の悪避など近代化の中で再編成される「嬢れ」「現代の墓地問題を、①名養後し ②賞利主 別を記録といて、記録との意地色営の問題についてまとめたもの。11 月号-12月号-1月 号等-140-47、12月号-p.60-66、1月号-p.9					ることがあり、このような複数の家々の集団が
「祖先祭祀」の対象ではないことも明らかにした。p.255-p.314   3ーロッパの葬送権礼ーヨ   単者   平成4年3月   SOUGI(葬儀) 8   ヨーロッパの葬送者俗について、比較社会史   的観点から問題として、多様な習俗が伝承されていることを明らかにした。たとえば、「死者 の婚礼」は中国・韓国などのおける死霊婦の   習俗と類似するが、ヨーロッパではキリスト教 との関連のなかでこの習俗は説明されている。p.65-p.69   家族精造の変化のなかで、家族が墓地の継   東者としての墓地行政   単著   平成6年12   比較家族史研究   9号   シーロッポの変な論について、その差域と同様心が必要であることを指摘した。p.43-p.46   社会学(女性学を含む)において展開されて   いる家族論について、その意義と問題点を明らかにした。社会規範としての感情(愛情)を問題として、それが家族集団を規制・東縛する論理となっていること、また家族機能が家 族集団から解除されている現実を指摘した。 p.66-p.68   共同体論の再検験をめざし、近代化論のなかに委譲されている現実を指摘した。 p.66-68   共同体論の再検験をめざし、近代化論のなかで問題になった共同体論の再検験をがごし、近代化論のなかで問題になった共同体論の再検診を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。p.215-219   日本伝統の「穢れ」観念を問題として、伝染病の監避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題として、経験・病の監避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題として、経験・病の監避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題として、経験・病の監避と間をしての不養貸し ②営利主   第一門興隆2000年11   現代の墓地問題についてまとめたもの。11   月今=p.40-47、12月号=p.90   の墓地経営の問題についてまとめたもの。11   月今=p.40-47、12月号=p.90					一つの墳墓を建立する場合、それを「総墓」
23.ヨーロッパの葬送儀礼一日   単著   平成4年3月   SOUGI(葬儀) 8   3   コーロッパの葬送電船(4)   1   1   1   1   2   2   2   3   3   3   3   4   3   3   3   4   3   3					と名付けた。また、このような墳墓が必ずしも
23.ヨーロッパの葬送儀礼 — 9 単著 平成4年3月					「祖先祭祀」の対象ではないことも明らかにし
世著 平成8年3月 法社会学 48号 川島理論を中心に 単著 平成9年2月 平成9年3月 日本伝統が「穢れ」観念を前提として、伝染病意社ので再編成される「穢れ」観念を前提として、伝染病の意達など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を前選とした(p.199-206) 現代の墓地経営を問う①~ 単著 平成11年1 月~3月 月号・12月号・1月 号・12月号・1月 号・12月号・1月 号・12月号・10年3日・11月号=p.60-666、1月号=p.9					た。p.255-p.314
和ていることを明らかにした。たとえば「死者の婚礼」は中国・韓国などのおける死霊婦の習俗と類似するが、ヨーロッパではキリスト教との関連のなかでこの習俗は説明されている。p.65-p.69 家族構造の変化のなかで、家族が墓地の継策としての墓地行政 単著 平成6年12 月	23.ヨーロッパの葬送儀礼 - ヨ	単著	平成4年3月	SOUGI(葬儀) 8	ヨーロッパの葬送習俗について、比較社会史
四婚礼」は中国・韓国などのおける死霊蜂の習俗と類似するが、ヨーロッパではキリスト教との関連のなかでこの習俗は説明されている。p.65-p.69 家族構造の変化のなかで、家族が墓地の継承さいての墓地行政 18号 25.最近の家族論の展開 単著 平成6年12 月 25.最近の家族論の展開 単著 平成6年12 月 26.村落構造論と共同体論 単著 平成8年3月 法社会学 48号 共協した。p.43-p.46 社会学(女性学を含む)において展開されている家族論について、その意義と問題点を明らかにした。社会規範としての感情(愛情)を問題として、それが家族集団を規制・束縛する論理となっていること、また家族機能が家族集団から解除され、部分的にそれが地域社会のなかに委譲されている夏寒を指摘した。 p.60-68 明題として、それが家族集団を規制・束縛する論理となったいる。大師の能の主なが、近代化論のなかで問題になった共同体論の再検討を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。p.215-219 日本伝統の「穢れ」観念を前提として、伝染病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206) 現代の墓地経営を問う①~ 第十 月~3月 月号・12月号・1月 最と抱き合わせ販売 ③臺地の永続性などの墓地経営の問題についてまとめたもの。11 月号-p.9 回りまた。 11 月号-p.9 の 26-66 に月号-p.9	ーロッパの葬送・墓制(4)			号	的観点から問題として、多様な習俗が伝承さ
24.現代の墓地問題-福祉政 単著 平成5年11 SOUGI(葬儀) 家族構造の変化のなかで、家族が墓地の継 承者となることが難しくなっている現実を指摘し、福祉政策としての墓地行政が必要であることを指摘した。p.43-p.46 社会学(女性学を含む)において展開されている家族論の展開 単著 平成6年12 月 比較家族史研究 社会学(女性学を含む)において展開されている家族論について、その意義と問題点を明らかにした。社会規範としての感情(愛情)を問題として、それが家族集団を規制・束縛する論理となっていること、また家族機能が家族集団から解除され、部分的にそれが地域社会のなかに委譲されている現実を指摘した。p.60-68 共同体論の再検討を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。p.215-219 日本伝統の「穢れ」一差別と墓 平成9年2月 部落解放研究 4 18号 中本伝統の「穢れ」観念を前提として、伝染病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206) 現代の墓地経営を問う①~ ② 第4年 日 1 号・12月号・1月 長・12月号・1月					れていることを明らかにした。たとえば、「死者
24.現代の墓地問題-福祉政 単著 平成5年11 SOUGI(葬儀) 家族構造の変化のなかで、家族が墓地の継 承者となることが難しくなっている現実を指摘し、福祉政策としての墓地行政が必要である ことを指摘した。p.43-p.46 社会学(女性学を含む)において展開されている家族論について、その意義と問題点を明らかにした。社会規範としての感情(愛情)を問題として、それが家族集団を規制・東縛する論理となっていること、また家族機能が家 族集団から解除され、部分的にそれが地域 社会のなかに委譲されている現実を指摘した。 p.60-68 共同体論の再構築をめざし、近代化論のな かで問題になった共同体論の再検討を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。p.215-219 日本伝統の「穢れ」観念を前提として、伝染 病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206) 現代の墓地経営を問う①~ ③					の婚礼」は中国・韓国などのおける死霊婚の
24.現代の墓地問題 — 福祉政					習俗と類似するが、ヨーロッパではキリスト教
24.現代の墓地問題 ―福祉政 第 としての墓地行政					との関連のなかでこの習俗は説明されてい
第としての墓地行政  月 18号					る。p.65-p.69
単著   平成6年12   比較家族史研究   上較家族幹研究   上較家族幹研究   社会学(女性学を含む)において展開されている家族論について、その意義と問題点を明らかにした。社会規範としての感情(愛情)を問題として、それが家族集団を規制・束縛する論理となっていること、また家族機能が家族集団から解除され、部分的にそれが地域社会のなかに委譲されている現実を指摘した。 p.60-68   共同体論の再検討を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。今後の研究の準備として書いたもの。今後の研究の準備として書いたもの。今後の研究の準備として書いたもの。p.215-219   日本伝統の「穢れ」   一差別と墓   平成9年2月   部落解放研究 4   日本伝統の「穢れ」   観念を前題として、伝染病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206)   現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主   現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主   現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主   現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主   現代の墓地問題で、①名義貸し ②営利主   表と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性などの墓地経営の問題についてまとめたもの。11   月号-1.2月号-p.60-66、1月号-p.9	24.現代の墓地問題-福祉政	単著	平成5年11	SOUGI(葬儀)	家族構造の変化のなかで、家族が墓地の継
単著   平成6年12   比較家族史研究   25.最近の家族論の展開   単著   平成6年12   比較家族史研究   9号   比較家族史研究   9号   比較家族與研究   9号   比較家族與研究   9号   比較家族與研究   26.村落構造論と共同体論   単著   平成8年3月   法社会学   48号   共同体論の本がに委譲されていること、また家族機能が家族集団から解除され、部分的にそれが地域社会のなかに委譲されている現実を指摘した。 p.60-68   共同体論の再構築をめざし、近代化論のなかで問題になった共同体論の再検討を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。p.215-219   日本伝統の「穢れ」観念を前提として、伝染病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206)   現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主   30   32   32   32   33   34   34   34   34	策としての墓地行政		月	18号	承者となることが難しくなっている現実を指摘
単著   平成6年12   比較家族史研究   社会学(女性学を含む)において展開されている家族論について、その意義と問題点を明らかにした。社会規範としての感情(愛情)を問題として、それが家族集団を規制・束縛する論理となっていること、また家族機能が家族集団から解除され、部分的にそれが地域社会のなかに委譲されている現実を指摘した。 p.60-68   共同体論の再構築をめざし、近代化論のなかで問題になった共同体論の再検討を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。9、215-219   日本伝統の「穢れ」一差別と墓   単著   平成9年2月   部落解放研究 4   18号   お客解な研究 4   18号   お客解など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206)   現代の墓地経営を問う①~   単著   平成11年1   寺門興隆2000年11   現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主   義と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性などの墓地経営の問題についてまとめたもの。11   月号-p.40-47、12月号-p.60-66、1月号-p.9					  し、福祉政策としての墓地行政が必要である
単著   平成6年12   比較家族史研究   社会学(女性学を含む)において展開されている家族論について、その意義と問題点を明らかにした。社会規範としての感情(愛情)を問題として、それが家族集団を規制・束縛する論理となっていること、また家族機能が家族集団から解除され、部分的にそれが地域社会のなかに委譲されている現実を指摘した。 p.60-68   共同体論の再構築をめざし、近代化論のなかで問題になった共同体論の再検討を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。9、215-219   日本伝統の「穢れ」一差別と墓   単著   平成9年2月   部落解放研究 4   18号   お客解な研究 4   18号   お客解など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206)   現代の墓地経営を問う①~   単著   平成11年1   寺門興隆2000年11   現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主   義と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性などの墓地経営の問題についてまとめたもの。11   月号-p.40-47、12月号-p.60-66、1月号-p.9					ことを指摘した。p.43-p.46
らかにした。社会規範としての感情(愛情)を問題として、それが家族集団を規制・束縛する論理となっていること、また家族機能が家族集団から解除され、部分的にそれが地域社会のなかに委譲されている現実を指摘した。 p.60-68 26.村落構造論と共同体論 平成8年3月 法社会学 48号 共同体論の再構築をめざし、近代化論のなかで問題になった共同体論の再検討を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。p.215-219 27.近代の「穢れ」ー差別と墓 単著 平成9年2月 部落解放研究 4 日本伝統の「穢れ」観念を前提として、伝染病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を前提として、伝染病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206) 28.現代の墓地経営を問う①~ 単著 平成11年1 寺門興隆2000年11 月号・12月号・1月 義と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性などの墓地経営の問題についてまとめたもの。11 月号=p.40-47、12月号=p.60-66、1月号=p.9	25.最近の家族論の展開	単著	平成6年12	比較家族史研究	
らかにした。社会規範としての感情(愛情)を問題として、それが家族集団を規制・束縛する論理となっていること、また家族機能が家族集団から解除され、部分的にそれが地域社会のなかに委譲されている現実を指摘した。 p.60-68 26.村落構造論と共同体論 平成8年3月 法社会学 48号 共同体論の再構築をめざし、近代化論のなかで問題になった共同体論の再検討を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。p.215-219 27.近代の「穢れ」ー差別と墓 単著 平成9年2月 部落解放研究 4 日本伝統の「穢れ」観念を前提として、伝染病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を前提として、伝染病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206) 28.現代の墓地経営を問う①~ 単著 平成11年1 寺門興隆2000年11 月号・12月号・1月 義と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性などの墓地経営の問題についてまとめたもの。11 月号=p.40-47、12月号=p.60-66、1月号=p.9					
る論理となっていること、また家族機能が家族集団から解除され、部分的にそれが地域社会のなかに委譲されている現実を指摘した。 p.60-68 26.村落構造論と共同体論 単著 平成8年3月 法社会学 48号 共同体論の再構築をめざし、近代化論のなかで問題になった共同体論の再検討を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。今後の研究の準備として書いたもの。p.215-219 27.近代の「穢れ」ー差別と墓 単著 平成9年2月 部落解放研究 4 日本伝統の「穢れ」観念を前提として、伝染病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206) 28.現代の墓地経営を問う①~ 単著 平成11年1 寺門興隆2000年11 現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主 義と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性などの墓地経営の問題についてまとめたもの。11 月号-p.40-47、12月号-p.60-66、1月号-p.9				-	らかにした。社会規範としての感情(愛情)を
る論理となっていること、また家族機能が家族集団から解除され、部分的にそれが地域社会のなかに委譲されている現実を指摘した。 p.60-68 26.村落構造論と共同体論 単著 平成8年3月 法社会学 48号 共同体論の再構築をめざし、近代化論のなかで問題になった共同体論の再検討を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。今後の研究の準備として書いたもの。p.215-219 27.近代の「穢れ」ー差別と墓 単著 平成9年2月 部落解放研究 4 日本伝統の「穢れ」観念を前提として、伝染病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206) 28.現代の墓地経営を問う①~ 単著 平成11年1 寺門興隆2000年11 現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主 義と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性などの墓地経営の問題についてまとめたもの。11 月号-p.40-47、12月号-p.60-66、1月号-p.9					問題として、それが家族集団を規制・束縛す
上書   上書   上書   上書   平成8年3月   法社会学 48号   共同体論の再構築をめざし、近代化論のなかに委譲されている現実を指摘した。 p.60-68   共同体論の再構築をめざし、近代化論のなかで問題になった共同体論の再検討を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。p.215-219   日本伝統の「穢れ」観念を前提として、伝染病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206)   現代の墓地経営を問う①~   単著   平成11年1   専門興隆2000年11   現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主   義と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性などの墓地経営の問題についてまとめたもの。11   月号=p.40-47、12月号=p.60-66、1月号=p.9					• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •
社会のなかに委譲されている現実を指摘した。 p.60-68   26.村落構造論と共同体論					
26.村落構造論と共同体論					
川島理論を中心に かで問題になった共同体論の再検討を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。p.215-219 日本伝統の「穢れ」一差別と墓 単著 平成9年2月 部落解放研究 4 日本伝統の「穢れ」観念を前提として、伝染病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206) 平成11年1 寺門興隆2000年11 現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主 月~3月 月号・12月号・1月 義と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性などの墓地経営の問題についてまとめたもの。11 月号=p.40-47、12月号=p.60-66、1月号=p.9					
27.近代の「穢れ」 - 差別と墓   単著   平成9年2月   部落解放研究 4   日本伝統の「穢れ」観念を前提として、伝染   病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206)   平成11年1   寺門興隆2000年11   現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主   月~3月   月号・12月号・1月   義と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性など の墓地経営の問題についてまとめたもの。11   月号=p.40-47、12月号=p.60-66、1月号=p.9	26.村落構造論と共同体論-	単著	平成8年3月	法社会学 48号	共同体論の再構築をめざし、近代化論のな
27.近代の「穢れ」 - 差別と墓 単著 平成9年2月 部落解放研究 4 日本伝統の「穢れ」観念を前提として、伝染 病の忌避など近代化の中で再編成される「穢 れ」観念を問題とした(p.199-206) 28.現代の墓地経営を問う①~ 単著 平成11年1 寺門興隆2000年11 現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主 月~3月 月号・12月号・1月	川島理論を中心に				かで問題になった共同体論の再検討を行っ
27.近代の「穢れ」 - 差別と墓   単著   平成9年2月   部落解放研究 4   日本伝統の「穢れ」観念を前提として、伝染   病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206)   平成11年1   寺門興隆2000年11   現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主   月~3月   月号・12月号・1月   義と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性など の墓地経営の問題についてまとめたもの。11   月号=p.40-47、12月号=p.60-66、1月号=p.9					たもの。今後の研究の準備として書いたも
18号   病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206)   28.現代の墓地経営を問う①~   単著   平成11年1   寺門興隆2000年11   現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主   3と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性など   の墓地経営の問題についてまとめたもの。11   月号=p.40-47、12月号=p.60-66、1月号=p.9					の。p.215-219
28.現代の墓地経営を問う①~ ③ 平成11年1 寺門興隆2000年11 現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主 月~3月 月号・12月号・1月 義と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性など の墓地経営の問題についてまとめたもの。11 月号=p.40-47、12月号=p.60-66、1月号=p.9	27.近代の「穢れ」-差別と墓	単著	平成9年2月	部落解放研究 4	日本伝統の「穢れ」観念を前提として、伝染
28.現代の墓地経営を問う①~ 単著 平成11年1 寺門興隆2000年11 現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主 月~3月 月号・12月号・1月 義と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性など の墓地経営の問題についてまとめたもの。11 月号=p.40-47、12月号=p.60-66、1月号=p.9				18号	病の忌避など近代化の中で再編成される「穢
③月~3月月号・12月号・1月義と抱き合わせ販売③墓地の永続性など号の墓地経営の問題についてまとめたもの。11月号=p.40-47、12月号=p.60-66、1月号=p.9					れ」観念を問題とした(p.199-206)
号 の墓地経営の問題についてまとめたもの。11 月号=p.40-47、12月号=p.60-66、1月号=p.9	28.現代の墓地経営を問う①~	単著	平成11年1	寺門興隆2000年11	現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主
月号=p.40-47、12月号=p.60-66、1月号=p.9	3		月~3月	月号・12月号・1月	義と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性など
				号	の墓地経営の問題についてまとめたもの。11
2–98					月号=p.40-47、12月号=p.60-66、1月号=p.9
1 1 1 1					2-98
29.老熟の力―その意味を考 単著 平成11年1 青少年問題43-12 向島の元気な老人達の活動を紹介し、〈老	29.老熟の力―その意味を考	単著	平成11年1	青少年問題43-12	向島の元気な老人達の活動を紹介し、〈老
えよう 2月 い〉の意味を考えたもの。P.41-46		1	1	İ	1

30.最近の家族研究の動向に	単著	平成13年4	比較家族史研究	2000年度の家族研究の動向について、高
ついての若干のコメント		月	15号	橋朋子『家族団体論』・丸山茂『家族のレギュ
			-	ラシオン』・米村千代『家の存続戦略』・山田
				-   昌弘『パラサイトシングルの時代』を取り上げ
				て、家族を論じる視座について論じた。P.130
				-139
31.彷徨う死者たち一戦没者祭	単著	平成14年2	学燈 99巻2号	   慰霊という観点から、現代の死者の有り様に
祀と「無縁墳墓」改葬の思想		月	1,422 00 21 2 3	ついて分析をしたもの。社会の中に死者をど
7 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -		,		のように位置づけるのかを問題にした。p.12-
				15
32.同族と門中-比較研究の	単著	平成15年6	秋田民俗 29号	
ためのノートとして	74	月	77 11 20 7	てきたかについて分析し、父系的親族集団
1200		)1		の多様性について言及した。p.52-65
33.全国調査 葬送と墓の意	単著	平成15年1	   寺門興隆 2003	平成15年に行った墓地と葬送に関しての全
識 ーアトツギが決まっている	千有	1月	年11月号	国規模の意識調査について分析したもの。
というのが4割という墓意識の		17	+11 <i>A A</i>	墓地の継承に関して不安に感じる人々が毎
揺らぎ				毎地の極承に関して不安に感じる八々が毎 年増えてきている。p.72-81
34. 墓·家族·市民社会	単著	平成17年	創造(茨城キリスト	「祖先祭祀の機能を組み込んだ家族」(日本)
34. 秦*豕族*川氏征云	半 有	3月	教大学(短期大学	と「祖先祭祀の機能を解除した家族」(ヨーロ
		3月	教人子(短期人子   部) 34号	
			司) 34万	ッパ)比較した上で、家族構造の差異が墓制
				にどのような影響を与えているかについて考
	)44 <del>-16.</del>	亚	注其人类 co目	察した。 P.23-39
35.埋葬と法一家族・市民社	単著	平成17年	法社会学 62号	日本社会には「埋葬義務」という観念は根づ
会·国家 		3月		いていない。なぜ埋葬義務の観念が根づか
				なかったのか、人間の死は私的枠組みで捉
				えることがもつ問題点を明らかにした。P.87-9
	))/ <del>     </del>	T N 6-0		8
37 家族研究の動向 - 森岡	単著	平成17年3	比較家族史研究	表題の2書を取り上げて、家族研究の視座に
清美『華族社会の「家」戦略』(2		月	19号	ついて論じた。山田はリスク論を家族に適用
002)と山田昌弘『希望格差社				して近代家族の幾重に言及したのにたし、森
会』(2004)の書評を通じて				岡は上層階層の家族を取り上げて日本の家
				族=家のあり方に分析した。P.79-96
38.門中と門中墓-読谷村楚辺	単著	平成17年8	民俗文化研究 6	読谷村楚辺を中心として、門中という親族集
の事例を中心に		月	号	団の構成単位が「家」ではないことを前提と
				し、門中の形成と門中墓の建造と門中の分節
				化について論じた。P.31-53
(その他)		発行年	所収雑誌・書籍	概要
(その他)   <b>[翻訳</b> ]		光打牛	/ 기 4 X 木 比 心 * 香 若	<b>似</b> 女
M.ミッテラウアー「ヨーロッパ的	単著	平成4年2月	比較家族史研究6	ウィーンでのミッテラウアー講演原稿。翻訳と
家族発展一個人化と自己同一	半有	十八八年十七月	比較多族史研先0 号	リイーン でのミップラリア 一講
		平成6年3月	7	
	¥n ≓□	十八八〇十3月	车围外(由于\ pp	ミッテラウアーの刺和 第6音「地十計Ⅲを」
『歴史人類学の家族研究-ヨ	翻訳			ミッテラウアーの翻訳。第6章「地方誌研究と
ーロッパ比較家族史の課題と			400	しての家族の社会史」(P. 203~P. 247)を

方法(共訳)』				担当。
[書評]				
1.伊藤幹治『家族国家の人類	単著	昭和58年	家族史研究 7号	
学』				
2.藤井正雄著『骨のフォークロ	単著	昭和63年1	比較家族史研究	
ア』		2月	2号 p.108	
3.石川一二夫著『近代日本の	単著	昭和64年	法社会学 41号	
名望家と自治ー名誉職制度の			p.228-p.233	
法社会史的研究』				
4.高橋統一著『村落社会の近	単著	平成8年3月	比較家族史研究	
代化と文化伝統』			10号	
5. 山中永之佑「池敷所有権の	単著	平成13年4	p.118-p.112	
帰属について一和泉国大島郡		月	法制史研究 50	
池田村清水池の場合			号 p.317-320	
6.久武綾子著『夫婦別姓-その	単著	平成17年3	比較家族史研究	
歴史と背景』		月	19号 p.74-5	
7.井上治代『墓と家族の変容』	単著	平成17年	家族社会学研究第	
			17号	
【事典・辞書類】				
1. 身分階層制			『百科事典』平凡社	
			(東京)	
2.祖先祭祀(明治民法下の祖		昭和60年	事典『家族』弘文堂	編集委員・編集事務局長として、項目の選
先祭祀)、隠居、郷墓、家凝集			(東京)、pp.1012	定・執筆者の選定・編集を担当した。執:
型/家拡散型、家元制度、後				
見、相本家、キントラクト、不融				
通物、本家礼、中継相続、アノ				
ニューム墓地、入墓規制、死				
亡届、合葬墓、相続(相続の開				
始)、擬制的親子関係、死者の				
婚礼、自葬、墓地				
3. 服忌・服忌令など		平成8年1月	『日本史広辞典』山	
			川出版社(東京)	
4. 戒能通孝『入会の研究』			『社会学文献事典』	
		月	弘文堂(東京)	
5・改葬・墓制など			『日本民俗宗教辞	
		月	典』東京堂出版(東	
			京)	
6. 家族国家論·家長·家督·家			『日本民俗学大辞	
督相続·冠婚葬祭互助会·契		月	典』吉川弘文堂(東	
約・系図祭り・財産相続・試験		7 6	京)	
婚・散骨・中継相続・同族神・		平成12年4		
年期智·法社会学·労役婚。中		月		

川善之助·川島武宜				
7. 上野和男·森謙二編『名前		平成16年	『文化人類学文献	
と社会-名前の家族史』			事典』弘文堂(東	
			京)	
[新聞・座談会・対談]				
1. 茨城の民俗ノート(1)~(1	新聞	昭和59年	いはらき(茨城新聞	茨城の民俗についての16回の連載
6)			社)	
2. 住谷一彦「共同体論」にお	座談会	平成4年9月	綾部恒雄他編『民	綾部恒雄(司会)、田中豊治、クライナー・ヨ
ける「経済と宗教」			族学コラージュ』リ	ーゼフ・住谷一彦の各氏との座談会
			プロポート(東京)	テーマ 住谷一彦の「共同体」における「経
				済と宗教」p.186-p.250
3. それでもお墓は必要ですか	対談	平成5年4月	『現代』4月号	島田裕巳氏との対談
4. 少子化時代の葬送	新聞	平成10年4	読売新聞(夕刊)	
		月15日		
5. 21世紀家族のゆくえ	新聞	平成15年1	公明新聞(日曜版)	
		月12日		
6. 比較家族史学会沖縄大会	新聞	平成15年5	琉球新報	
に向けて		月23日		
7. 私の郷土紙批評	新聞	平成16年7	茨城新聞	平成16年7月から月に1回の連載(12月ま
		月~		で)
V Mar A story at a W				
【学会報告】	777. XTP	四年57年11	11.数字状也开塞人	
1. 秋田地方の同族制と総墓	単独		比較家族史研究会	第1回研究懇話会、労音会館
0 4 5 10 4 5 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	774 XPP	月四年50年11		
2. かえりむこの慣行	単独		比較家族史学会	第6回研究大会、武庫川女子大学
3. 明治初年の墓地および埋	単独	月 昭和64年6	比較家族史学会	第15回研究大会、大正大学
葬に関する法制の展開	平低	月	比較家族文子云	第15回朔元八云、八正八子
4. 宮座・トウマイリ・年齢階梯	共同	平成7年5月	日本民俗学会	札幌大学
制墓地	X IB	T //X / + 0/1	1 个人们于云	
5. 村落構造論と共同体論	単独	平成7年12	日本法社会学会	1995年度学術大会、日本大学法学部(大宮
	T 121	月		校舎)
6. ムラ祭祀と宮座	単独	平成8年6月	京都民俗懇話会	第14回大会、仏教大学
7. 名前と家族、シンポジウム	共同	平成8年11	比較家族史学会	第29回研究大会、明治学院大学
8. 祖先祭祀の多様性と家		月	日韓家族法学会	松山大学
9. ブナカとサニー門中の基層	単独	平成15年5	比較家族史学会	沖縄大学
構造		月		
	共同	平成16年5	日本法社会学会	立命館大学
祀条項)との関連で		月		
11. 日本における死者と追悼	単独	平成17年3	国際宗教学宗教史	品川プリンスホテル
の現代一少子時代におけるお		月	会議•第19回世界	
墓とその継承(全国調査から見	共同·単		大会	
·	1	İ	ı	ı

た意識変化)・戦没者施設に ついての国民意識(全国調査 の分析) = 英語	独	
【 <b>裁判鑑定書</b> 】 平成 12 年(ワ) 第 766 号永代	千葉県地方裁判所松	
使用権等確認事件		定書」に対しての「反論」(A4-29 頁)を書いた。
	調査時期	調査テーマ・報告書など
1.茨城県東茨城郡茨城町	昭和 50 年	テーマ 農家相続 都市化されようとしている農村における 農家相続の実態調査(報告「〈都市化〉されつつある農村に おける農家相続ー中間報告」『創造』 5 号、1976(P.35-57))
2.茨城県久慈郡里美村	昭和 52 ~ 54 年	テーマ 過疎農村と農家相続/村落構造と家族。報告「過疎 農山村と農家相続=里美村における実態調査報告」『創造』 7 号(1978) P.13-40、「北関東地方における村落と家族」一茨 城県久慈郡里美村での実態調査報告『創造』 9 号(1980) P.45-67。1979年のこの地域での調査は文部省科学研究費補 助金(奨励研究A)に基づくものである。
3.静岡県賀茂郡河津町逆川	昭和 56 年	テーマ 伊豆地方の村落と家族、報告「伊豆地方の村落と家族一静岡県賀茂郡河津町逆川の事例」『創造』 1 1 号 (1982) P.50-75
4.秋田県河辺郡雄和町水沢	昭和 57 年	テーマ 同族・村落と墓制、報告「秋田県における同族・総 墓・村落一河辺郡雄和町の事例を中心として」(前掲、論文8 を参照)
5.茨城県水海道市大輪町	昭和 58 年	テーマ 茨城県南部の村落と家族、報告「茨城県南部の村落と家族一水海道市大輪町実態調査報告」『創造』 13号(1984) P.83-P.129
6.石川県珠洲市三崎町大屋	昭和 59 年	テーマ 奥能登地方の社会構造、報告「奥能登地方の民俗と社会-石川県珠洲市三崎町大屋地区調査中間報告」『創造』14号(1985)、P.21.51
7. 長野県下伊那郡清内路村	昭和 60 ~ 61 年	テーマ 清内路村の社会構造と墓制、この報告は『出作りの 里ーその民俗と歴史』(前掲、単行本4を参照)。この調査は 文部省科学研究費補助金一般研究(C)の助成を得た。
8. 秋田県仙北郡田沢湖町田沢	昭和 62 ~ 63 年	テーマ 同族制村落の社会構造、報告「田沢の民俗と社会」 『創造』17号(1988)P.13-40、
9. 奈良県山辺郡都祁村	昭和 64 ~平成 8 年	テーマ 宮座・トウマイリ・墓制、報告「都祁村の民俗と社会」『創造』21号(1990)p.79-120)・23号(1994)P.95-133・24号(1995)P.85-118・25号(1996)P.83-125
10.三重県志摩郡大王町船越	平成8年	テーマ 隠居制と年齢階梯制社会 報告「志摩船越の民俗と 社会-予備的考察」『創造』 26 号 (1997)
11.沖縄県読谷村楚辺	平成 10 年~	テーマ 沖縄の門中と墓
12沖縄県宮古郡下地町来間	平成 12 年~	テーマ 沖縄の基層構造と門中、この地域の調査では科研費 (A)(1)『沖縄における近代法の形成と現代における法的諸問 題』(代表 田里修沖縄大学教授)を受けた。